

調 査 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	16
1. 理念の共有		3
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		5
4. 理念を実践するための体制		4
5. 人材の育成と支援		3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		3
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		2
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		7
1. 一人ひとりの把握		2
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成・見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との連携		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		15
1. その人らしい暮らしの支援		13
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		41

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年1月26日 開始 10時00分 ~ 終了 15時20分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 晴遊庵 (新潟県)
評価調査員の氏名	氏 名 山崎 由美 氏 名 高橋 玲子
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 飯浜 好子 ヒアリングを行った職員数 (4)人

○項目番号について

外部評価は41項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成 21年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1570200996
法人名	医療法人 立川メディカルセンター
事業所名	グループホーム晴遊庵
所在地 (電話番号)	新潟県長岡市大字日越337番地 (電 話) 0258 - 47 - 8520
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(20年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建て, 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2			5 名
要介護3	1 名	要介護4			名
要介護5	名	要支援2			名
年齢	平均 89.2 歳	最低 78 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	悠遊健康村病院、立川総合病院、介護老人保健施設悠遊苑
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年に開設し、介護保険施設、医療を手掛けている医療法人が運営母体である。長岡市を一望できる高台に位置し、夏の長岡花火は最高のロケーションである。近隣には医療施設があり、連携体制がしっかりしていて恵まれた環境である。木造平屋建ての1ユニットであり、ゆったりした空間で職員、利用者ともに笑顔が絶えない温かな雰囲気包まれたホームである。職員間のチームワークが良好で、利用者への配慮が徹底されており、理念通り「本人らしく」生活が営まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	先回の評価結果を受け、全体会議にて話し合い具体的な改善に取り組んでいる。屋外用倉庫の鍵については何度も話し合い、改善に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、利用者・家族等メンバーを固定せずに開催しており、ホームの状況報告・情報交換を行っている。家族参加の行事、開催するたびにたくさんの意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を明示し説明している。また併設病院に意見箱の設置もあるが、家族の方とは直接意見を言ってもらえる関係が構築されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	高台に位置しているため、住宅から少し離れているので散歩で出向いて地域の方に認知されるように挨拶を交わす等交流に努めている。また、毎月のホーム行事に地域の方へ参加してもらえようコミュニティセンターや併設病院等に案内を掲示して呼びかけている。地域の行事への参加が今後の課題である。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは大切にします。あなたの笑顔、あなたの元気、あなたらしさ」という理念は、昨年、管理者・職員で話し合い、考え、目指すところを一つにして、理念に沿いその人らしい暮らしを支援している。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やフロアに掲示している。行事計画時から「自然に出る笑顔」を意識しながら理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2-2	3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の中の「笑顔」をキーワードにして利用者・職員ともに自然な笑顔で過ごせるように取り組んでいる。地域や家族の方にはお便りを回覧したり、コミュニティーセンターを通して理解してもらえよう伝えるように伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月のホーム行事やお茶のみに地域に声かけしているが参加者は少ない。地域行事に参加したいと考えているが、住宅から少し距離があるため地域との関わりが難しいのが現状である。積極的に地域の方と関われるようにホームの行事等は回覧や掲示でお知らせし交流することに努めている。	○	地域行事・活動への参加や近隣のコミュニティーセンターの「老人会」、ボランティア、児童との定期的交流ができるように、まずは地域の情報を収集するために回覧板を回してもらってから始め、少しずつ地域の一員として活動することを期待したい。
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンスにて評価の意義を説明し、全職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。評価の意義を理解し、改善していくためにこまめに話し合いが行われている。今回の自己評価を通して、業務や利用者との関わり方を再確認する機会とし全職員で話し合い取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進委員を定めず、いろんな方に参加してもらい開催している。ホームの状況報告をして助言・意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者を通して「地域密着型集団指導」に参加し情報交換している。事あるごとに連絡をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6-2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義・対応方法についてホーム独自の勉強会を行い、全職員で学ぶ機会を設けている。日々の対応に注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回手紙や明細書・お便りを送付している。面会時や必要時電話連絡を行い、暮らしぶりの報告をしている。職員異動については過去2年間行われていないが、ある場合はお便りで家族に報告することになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	併設病院に意見箱を設置して意見をもらうようにしているが、意見箱の利用はあまりなく、直接意見を表出してくれる方が多い。また、運営推進会議で参加家族より意見を聞いて上司に報告し運営に反映させている。		
8-2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め、職員間で何でも言い合える良い関係が出来ている。会議・親睦会・休憩時間等にて職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。職員意見からふる場の手すりを設置した例がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は弊害を理解し、異動は最小限に抑えている。運営者の意見から男性職員をスタッフに加えることで職場の雰囲気活性化した。代わる場合は利用者に不安を与えないように報告し、他の職員が引き継ぎを徹底し支えダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備しており、職員と会議等でマニュアルを利用し、ホーム独自のマニュアルを作成して全員に周知している。日頃より、問題提起し適宜見直しを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、年間計画を作成し、積極的に研修機会の確保に努めている。ホームでは職員が毎月順番に担当し、それに沿った勉強会をしている。個別に資格取得の相談にのり、勧めており、段階的に育成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他ホームとの交流の機会も多々あり、また市内のグループホームとの交流を図れるように市に提案して「地域密着型集団指導」時に交流を図り、そこでの気付きをサービスの質の向上につなげている。		
11-2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	併設病院に休憩室を設けているが、実際には利用者と同じ和室で和やかに過ごしており、逆にそれでストレス軽減が図れている。管理者と職員は些細なことでも言い合える良好な関係ができています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設利用からホームのサービスの開始となる方がほとんどであり、申し込みの際に見学を勧め、本人や家族と相談し、違和感無く馴染めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす中で、料理の仕方や昔のマナーを教えてもらったり、冗談を言って笑ったり、楽しみながら支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在があってこそ、ホームにおいても穏やかに暮らしていくことができると感じており、一緒に本人を支えていく大切さを伝え関係を築いている。事あるごとに相談し、関係の継続に配慮しながら支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室等で1対1で話し合う機会をじっくり持ち、日頃から言動や暮らし方に注意し、「気付き発見ノート」を活用して希望・意向の把握に努めている。		
14-2	34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	MDS・センター方式により、本人・家族と積極的に話をする機会を持ち、一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握と情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスは職員で話し合い、居室担当職員を中心に計画作成担当で、本人・家族の意見やアイデアが反映された介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題の把握や変化に気付きやすいように工夫し、状態変化時等に家族に意見をもらい、現状に即した新たな計画を作成している。3ヶ月に1回をめやすに見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・自宅への外出やかかりつけ医の通院支援等、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認しているが、協力医である併設病院をかかりつけ医とし受診している。職員が付き添い、利用者の状態を医師へ情報提供し適切な医療が受けられるよう支援している。同法人看護師が毎日訪問してくれるので報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、ホームのできる範囲を説明し同意を得ている。状態に応じて話し合い、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないようさりげない言葉かけや対応に努めている。個人情報についてはマニュアルに沿って対応し、会議で話し合ったり、研修で学ぶ機会を設けプライバシーを確保している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩に出かけたり、一人ひとりのペースや希望を大切に、メリハリを持って日々を送れるよう柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付け等、一人ひとりの有する力を活かして一緒に食事づくりを行っている。職員と会話しながらの季節感や五感を刺激する食事は楽しみなものとなっている。		
22-2	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	居室にトイレが設置されており、個々に合わせた排泄を配慮している。オムツ・パッドはできるだけ使用しないように自立に向けた支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日か3日に1回程度であるが、毎日希望があれば他の利用者に負担がかからないように入浴していただいている。入浴剤や一緒に歌を歌う等、楽しい工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・梅干し作り・調理・洗濯等、本人の生活歴や得意な分野を活かした役割があり、能力に合わせ自立支援をしている。外出支援は個々の役割を活かし、楽しみ・気晴らしになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材・日用品の買い物、散歩等、希望に沿って日常的に外出を支援している。利用者・家族の希望にて個別の外出にも対応している。また、月に1回は全員でドライブに出かけたり、外食を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを策定し、全体会議で「禁止となる具体的な行為」について話し合い、勉強会で学んだり、マニュアルを利用して、全職員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が弊害を理解している。個々に気分・状態を把握し、職員間で連携プレーを徹底している。玄関には鈴を設置し、工夫を重ね鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26-2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態に応じ転倒・転落防止の「スコアシート」を作成して事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハット事故報告書を活用し、カンファレンスで検討し改善に繋げている。		
26-3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡がスムーズにできるようにフローチャートを作成する等工夫し備えている。マニュアルを策定し、緊急時は併設病院と連携することとしているが、体制づくりを検討しているところであり、定期的な訓練も行われていない。	○	特に夜間は職員が一人になるため、応急手当や初期対応・救命救急訓練等の訓練を定期的に行い、事故発生に備えるのが望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導のもと併設病院と合同で避難訓練を実施している。夜間の訓練も行っている。備蓄・防災セットは併設病院に準備されている。地域との連携が今後の課題である。	○	避難訓練を行う際に地域の方に声かけをする等、呼びかけて協力を得られるように期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員全員で利用者の希望を取り入れながらマニュアルに沿って立てている。調理師の資格を持っている職員の意見を聞きながら、栄養バランスを考えた食事を提供している。毎食後、食事量・水分量をチェックし、調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダで花火を鑑賞したり、景色を楽しんだり、畑は季節を感じられる場となっている。室内は手作りの作品や写真・生花で飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室にはトイレや洗面・ベッド・テレビ・タンスが設置されており、プライバシーに配慮している。本人や家族と相談し、家族の写真や手作りのプレゼントが飾っており、馴染みのものを自由に持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		